幼兒教育

第十九卷　第十號
大正八年十月一日發行

目次

聾啞兒童に就て……小西信八
今年の夏に(一)……倉橋生
夏休みを終へて……H N 子
ヘッベル「わが幼時」(二)……艶子譯
雜報……
保育手段としてのお話(一)……倉橋惣三述

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊　郵稅共金拾六錢　六冊前金郵稅共九拾錢
拾二冊同金壹圓八拾錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

大正八年九月廿七日印刷納本
大正八年十月一日發行

編輯兼發行者　東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四　倉橋惣三

印刷者　東京市本所區番場町四番地　守岡功

印刷所　東京市本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會

幼兒教育　第十九卷第十號　大正八年十月一日發行

聾啞兒童について

東京聾啞學校長　小西信八

折角人としてこの世に生れながら、その最も人としての特權である言葉を、人間生活の最要の武器とも云ふべき、思想交換の唯一の手段たる言語を理解する事の出來ない聾啞の人、何が不幸であると云つても聞く事も話す事も出來ないこの不具者ほど不憫なものはありますまい。よく俗に「盲人は可愛相であるがこの世の事を見ないのであるから罪がない、しかも人の云ふ事も解るし自ら話す事も出來るから。しかるに啞の人は見て又感じてゐても自分で何の發表も出來ぬ全く罪だ」と申しますが實際、眼に樣々の現象を映じ、人々の心におこる樣々の働きを直觀しながらしかも自ら、一音もきゝ得ず、一言も發し得ぬこの不具者の憐れさは推察に餘りがあると思ひます。

人誰が子孫の健剛その繁榮を願はぬ者がありませう。善い上にもよかれかしと願ふは親心の常で人並みに生れた子を持つ親としてもまたいやが上にその健全なる發達を希ふのであつて身にも心にも一點の瑕なきを思つて苦勞するのであります。生れた子に對してかく迄熱烈に最良を期する世の人々は何故、子の生れぬ先に、卽ち結婚に際して、否各個人が身をつゝしむ事に於て嚴格に眞面目に考へる事をしないのでせうか。如何なる原因によつて聾啞の不幸兒が生れるか、これは私は今更此處に申上る迄もなく既に永い間種々の方面の研究が世にこれを明らかにして居る事であります。近緣結婚による弊害、酒毒及亂淫の結果が生兒に及ぼす影響は誠に恐るべきものであります。左に本校が調査統計したる表を御參考の資と致します。（文責記者）

第一表

開校以來生徒失官原因表

（明治一三年ヨリ大正七年四月八日マデ）

原因＼年齢	生來	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	不詳	別計	合計
一 生來	二七二 一七一													二七二 一七一	四四三
二 腦膜炎		四〇 二九	四〇 一七	三三 二〇	五 六	五 二	二 一	二 一				一		二二七 一七六	二〇三
三 腦病		一 七五	九 四	一 一〇	二 一				一 一		一 一			三九 一六	五五
四 腦打撲		一 一五	一 一〇六	一 四〇	四	二 一	一							四八 二六	七四
五 外聽道炎		一 二七	五	六 三		二 一								二 一六	三七
六 中耳炎		四 一	三 一	三 三	一	二 一	一							一 八二	二〇
七 痲疹		二 一	一 三	一	二 一			一						六 六	一二
八 小兒急癇		一 三	四 一	一 一										六 五	一一
九 百日咳		三 五	一 一		一									四 七	一一
一〇 ヂフテリヤ		一 二	四	二				一						六 四	一〇
一一 遺傳梅毒			一 三	二 二			一		一					四 五	九
一二 熱病		二	二		一				一					六	六
一三 腦水腫		三	一											四	四
一四 流行感冒			一	一 一										二	三

男兒
女兒

一五 神經麻痺				一							一			一 一	二
一六 腦充血			一						一					一 一	二
一七 腸間膜腺結核			一		一									一 一	二
一八 赤痢				一		一								二	二
一九 鼓膜破裂				二										二	二
二〇 天然痘			一											一	一
二一 腦震盪		一												一	一
二二 ウイルヒヨウ氏血斑								一						一	一
二三 マラリヤ		一												一	一
二四 不詳													六七 六五	六七 六五	一三二
二五 別計	二七二 一七一	九一 七五	八九 四二	六八 三八	一六 一二	一一 五	五 二	五	二 二	一	二 二	一	六七 六五	六二八 四一五	一、〇四四
二六 合計	四四三	一六六	一三一	一〇六	二八	一六	七	五	四	一	四	一	一三二	一〇四四	

注意 一、明治一三年一月開校以來大正七年四月八日マデ入學者男六二八名女四一五名(再入學男三六女二一名ヲ除ク)中生來最モ多ク男二七二女一七一之ニ次グハ腦膜炎男一二七女七六其次ハ腦病男三九女一六其次ハ腦打撲男四八女二六トス又男女合セテ一〇人以上ナルハ外聽道炎(外耳炎)中耳炎、麻疹、小兒急癇、百日咳、ヂフテリヤ、ノ六患トス、腦病中腦膜炎無キヲ保セズ、暫ク父兄ノ陳述若ハ申告ニ止リ醫師ノ診斷ニ徵シタルニハ非ラズ

二、腦膜炎又ハ腦病ニ依リ失官シタル者ノ父ハ大酒家多キガ如シ

三、腦打撲ハ緣側又ハ二階ヨリ若ハ子守ノ背ヨリ墜落シタル者多キガ如シ

四、失官年齡ヲ檢スルニ最多ノ生來ヲ除キテハ最モ多キハ一歳ニシテ男九一女七五其次ハ男八九女四二其次ハ三歳男六八女三八ニシテ四歳以下ハ一〇人ニ滿タズ一一歳以上ニハ失官者ナシ育嬰ノ責アル者ノ深ク注意スベキ所ナランカ

第二表

開校以來兩親婚別生徒失官原因統計表

（明治一三年ヨリ大正七年四月八日マデ）

失官原因＼兩親婚別	第一 無縁者間兒	第二 從兄弟間兒	第三 再從兄弟間兒	第四 遠縁者間兒	第五 伯叔甥姪間兒	第六 三從兄弟間兒	第七 關係不詳者兒	總計 男	總計 女	總計 合計
一 生來	一九九	五三	一三	四	一三		一三	二七三	一七一	四四三
	一一三	三四	一二	六	三		四			
	三三	八七	二三	一〇	五		六			
二 腦膜炎	一一三	一二	二	一一			一	二一七	七六	二〇五
	六六	三	四	一			一			
	一七八	一四	一四	三			二			
三 腦打撲	三七	六	三	一		一	一	四八	二六	七四
	一九	四	一			一	一			
	五六	一〇	四	一		一	二			
四 腦病	三〇	二	三	三		一		五九	一六	五五
	一四	二								
	四四	四	三	三		一				
五 外聽道炎	一八	二		一				二	一六	三七
	一三	四								
	三〇	六		一						
六 中耳炎	一〇	二						一三	八	二〇
	六	二								
	一六	四								
七 麻疹	六		一					六	六	一二
	四	一								
	一〇	一	一							
八 小兒急癇	五	一						六	五	一一
	三	二								
	八	二								
九 百日咳	二	二						四	七	一一
	七									
	一九	一								
一〇 ヂフテリヤ	六							六	四	一〇
	四									
	一〇									
一一 遺傳梅毒	四			一				四	五	九
	四									
	八			一						
一二 熱病	六							六		六
	六									
一三 腦水腫									四	四
	一									
	四									

一四 流行感冒	一五 腦神經麻痺	一六 腦充血	一七 腸間膜腺結核	一八 赤痢	一九 鼓膜破裂	二〇 天然痘	二一 腦震盪	二二 ツイルヒヨウ氏血斑	二三 マラリヤ	二四 不詳	二五 合計
二	一	一	一	一	二		一	一		三六	四八〇
一	一	一	一			一			一	四〇	三〇二
三	二	二	二	一	二	一	一	一	一	七六	七八二
二										九	八九
										七	五九
二										一六	一四八
				一						一	一三
										一三	三〇
				一						一四	四三
											二
										一〇	一〇
										一〇	一二
											二
											一三
											一五
											一
											一
											二
										三	二四
										二	二〇
										五	四四
二	一	一	一	二	二		一	一		六七	六三九
一	一	一	一			一			一	六〇	四一五
三	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一二七	一、〇五四

注意 一、明治一三年開校ヨリ大正七年四月八日ニ至ルマデ三八年間入學者(再入學者男三六女二一名ヲ除ク)一、〇四四名中兩親結婚ノ關係ニヨリ血緣ナキ者從兄弟再從兄弟遠緣者三從兄弟關係不詳者ノ七種トシ第一ヨリ第六マデ生徒ノ多少ニ依リ序次ヲナシ第七ハ數ノ序次ニ依ラズ最下ニ置キタリ、但第四種ニハ第五種第六種ヲ含ムコト無キヲ保セズ、各種共ニ生來腦膜炎腦病腦打撲ヲ最モ多シトス

二、婚別關係不詳并ニ失官原因不詳ハ明治一八年一二月一日文部省直轄トナル前ニ退學シタル者若ハ其後ノ入學者ナルモ父兄ノ申告ヲ受ケ若ハ陳述ヲ記セザル内ニ退學又ハ死亡シタル者トス

第三表

卒業生結婚及產兒（大正七年三月末調）

結婚別		組數	結婚當事年齡 合計	結婚當事年齡 最多	結婚當事年齡 最少	結婚當事年齡 平均	同棲年數 合計	同棲年數 最多	同棲年數 最少	同棲年數 平均	產兒數 合計	產兒數 最多	產兒數 最少	產兒數 平均
一類	聾夫常婦	二七	男 七〇四	男 三六	男 二〇	男 二六	二一九三	二	八		五八	一二	〇	二
			女 六三〇	女 三七	女 一四	女 二四								
二類	聾夫聾婦	二三	男 六五二	男 三八	男 二四	男 二八	一二九	一七	一	五	二五	五	〇	一
			女 五七七	女 三八	女 二〇	女 二五								
三類	常夫聾婦	一二	男 三三九	男 四九	男 二一	男 二八	一二四	二九	三	一〇	二〇	四	〇	二
			女 二八八	女 三〇	女 一六	女 二四								
合計		六二	男 一、六九五	男 四九	男 二〇	男 二七	四七二	三〇	一	七	一〇三	一二		二
			女 一、四九五	女 三八	女 一四	女 二四								

注意　一、第一類ノ二七夫と、第二類二三組中ノ一八夫ト一九婦、第三類一二婦トハ皆本校卒業生

二、三類共ニ結婚年月年齡不詳者若ハ死亡離緣同棲年間ノ孰カガ不詳者若ハ同棲年間滿一年ヲ超エザル者ヲ控除シタリ（第一類ニハ一六組第二類ニハ一二組第三類ニハ三組）

第四表

卒業生死亡一覽

（大正七年三月末調）

卒業學科	卒業總計			死亡原因	一 肺結核	二 腦膜炎	三 自殺	四 脚氣	五 胃腸	六 腎臟	七 赤痢	八 心臟	九 チブス	一〇 出産	一一 怪我	死亡者合計	卒業生百人中死亡者
	男	女	計														
一 尋常科	一六〇	六四	二二四		一三	三	二	二	三	一		二	二		一	二九	一八
二 高等科	二七	七	二七													三	一一
三 圖畫科	四五	四	四五		七		一	一			二	二				一二	二六
四 裁縫科	二一	八五	二一		三	二			一					一		五	二四
五 木工科	三三		三三		四											四	一〇
合計	二八六	一六〇	四四六		二八	四	三	四	四	一	一	五	二	一	一	五三	二二
					四〇	一〇	三	四	七	四	一	五	二	一	一	七八	一七

尋常科及高等科卒業生ハ高等科ヘ、尋常科高等科及技藝科卒業生ハ技藝科ヘ、技藝科中圖畫科木工科卒業生ハ木工科ヘ、同圖畫科裁縫科卒業生ハ裁縫科ヘ轉計ス

今年の夏に（一）

倉橋生

一

名古屋の保育界は、疾くに訪ふべくして其の機會を得ずに居た。七月十五日の夜、名古屋の停車場で出迎へて下さつた市保育會の方々にお目にかゝつた時には、今度こそ宿約を果したといふ心持ちがした。

講習會は市の第一高等女學校の講堂を會場として、翌十六日から三日間開かれた。問題は『幼稚園教育の本質』といふ題目で、會員諸君の熱心は充分に講師を喜ばした。たゞ、始めて此の地に幼稚園を論ずるといふ心持ちから、說き方を餘りに第一義的にして、保姆其の人の人情と常識とに保育の眞諦を求めようとしたことは、若い方には或は捕捉し難い樣の感をさせたかも知れない。しかし、私は名古屋の保育界に、どうしても此の第一義諦を深思して貰はざるを得ない。保育は主義ではない。方法ではない。理論ではない。形ではない。保姆その人に卽けることで各自の人情と常識とから、大膽に、しかも周到に生み出さるべきものである。

名古屋市の幼稚園は、豫て私の非常に興味を持つて居たところである。市立の幼稚園が三つと、その外に幾多の私立幼稚園があつて、その私立幼稚園が基督敎主義のもの、佛敎主義のもの、皇風主義のものと、其の設立の趣旨、目的の色彩がハッキリして居るのである。市立幼稚園を純敎育上の公民幼稚園とすれば、私立の三幼稚園は、設立者の人生に對する特別な主義信念によるものである。之れに加ふるに社會事業的意味の二葉保育園がある。名古屋市の幼稚園は其數に於て必ずしも多いのではないが、實に特色ある各種の幼稚園の標本を集めたもの丶樣に見られる。幼兒敎育の研究に一種の便利を與へるともいへる興味ある土地である。

基督敎主義の幼稚園は、旣に休暇であつた爲に觀ることの出來なかつたのは遺憾である。しかも其の出色ある保育方針と、永き經驗ある園長の熱心とは多くの人々から聞いたことである。殊に其の美しい庭園を見ることの出來なかつたのも遺憾であつた。

二葉保育園も、時がなくて訪ふことが出來なかつた。しかし、園長から其の特別な苦心のお話をいろ〳〵と伺ふことは出來た。普通の幼稚園よりも何倍か六かしいのは所謂保育所を教育的に充實することである。當事者の骨折りも並み大抵のことではないと思ふ。其後新築も出來て、その紀念の繪葉書を送つて頂いた。誠によろこばしいことである。名古屋は土地柄、將來に於て益々此種の保育事業を要すべきところである二葉保育園の發達を祈らざるを得ない。

佛教主義の佛陀會幼稚園は、木津無庵氏の主宰せられるところで、石田馥子氏が主任保姆である。今は普通の住宅風な建物で、門から奥深い玄關の具合、苔のついた庭の趣き、拭きこんだ柱や椽の光澤、どこ迄も落ちついた、家庭的な、しつとりとした幼稚園である。幼兒の居るところを見ることは出來なかつたが、あの設備では、きつと靜かに、しんみりした保育が出來ることゝ思つた。しかし、佛陀會幼稚園は、こゝでまだ滿足せずして、新築の工を起し、近く其方へ移ることになつて居る。其の發展や實に賀すべきである。新築の方は未だ見ることを得なかつたが、其の設計等に就ては木津氏から詳しいお話を伺つた。その中でも私の殊に興味を以て期待して居るのは、禮拜室と、コルク敷きの床とである。新築の後を見たいものである。

皇風幼稚園は、第一第二に分れ共に朝倉尙綱氏の主宰せらるゝところで、第一の方は工藤壽子氏が主任保姆第二の方は駒形くら子氏が主任保姆である。尙朝倉夫人も力を添えて居られる。朝倉氏の皇風主義に就て玆に詳しく述ることは出來ないが、我國民の生活は一つに我國建國の大本義に基いて、其の精華を發輝することに努めなければならぬといふ主張である。而して、此の主旨は幼兒の教育から充分徹底せらるべきであるといふのが、皇風幼稚園の起された精神である。而して此の精神は、保育の實際には勿論、室内の裝飾にも、研究上の圖表の如きものにも顯はれて居る。此の深い、眞に深い處まで入らなければ、ほんとうには分らない此の精神が、どこ迄此形にあらはれて居るかは吾々の測れないことであるが、兎に角く、此の特色ある幼稚園の一面の特色だけは肯かるゝのである。

私の口癖の如く言ふ樣に、我國には考へた幼稚園が少ない。だから、一ツ々々の幼稚園が眞に特色を

もつといふことが少い。謂はば幼稚園に各の主張が少ない。僅に方法の上の違ゐ位で、根底的の主張の違ゐが對立する程に、しつかりした銘々の考へに基礎をおいて居るものが少い。之れは我國の此頃の樣に、教育といふものを一ッの普遍的な圖策として行ふだけで、教育者その人の主義、精神に根ばえさせることの少い處では已むを得ないことであるが、吾々には常に物足りない處がある。わざと特色を塗り看板の樣に、製造したり高揚したりする要はない。教育は、そんな淺はかなものではない。しかし、余は斯く信ずる。余に取つて、人生は必ず斯うでなければならぬといふ主義信念のある人が、その自分の主義信念から教育を生み出し、實行してゆくといふ樣のことも、あつて欲しいものだと思つて居る。勿論その主義信念の善し惡しを考へなければならないが、善し惡しよりも先決的な問題は、主義信念のある無しである。

私は名古屋で、此の主義の幼稚園を見ることを豫ねての興味として居たのである。殊にそれを對立的比較に於て見ることを興味として居たのである。興味としたと言つては濟まないかも知れない。實際私は、主義の幼稚園に尊敬を以て居たのである。我が信ずるところを以てする以外に、眞の教育は出來るものでないからである。

市立第一幼稚園は、足立由三郎氏を園長に、坪内キク子氏を主任保姆に。市立第二幼稚園は岡田惠市氏を園長に、市川たま子氏を主任保姆に。市立第三幼稚園は、中島伊勢三郎氏を園長に、東郷繁子氏を主任保姆に。それ〳〵熱心に其の内容の充實をはかつて居られる。坪内氏は東京女子高等師範學校保育實習科の先輩で、名古屋に於ける保育界の最古參者である。室内、遊園ともに工夫考案に充ちて居ると言つてよい。市川氏は奈良女子高等師範の出身、東郷氏は東京女子高等師範の出身で、兩氏とも幼稚園教育には未だ新らしい方々であるが、其の素養と一般教育に於ける豐かな經驗とを以てして、將來に大に期待すべきものがある。斯教育の爲に斯くの如き力強い働き手を得て居ることは、流石に中京保育界であると思つた。

最後に尙ほ一言して置き度いことは、此の、それ〴〵特色のある幼稚園の揃つて居る名古屋保育界に於て、各園の保姆諸君が、互によく協和し、研究、

親睦、ともに歩を共にして居らるゝことである。之れは豫て此の地を見た大阪の竹村君からも、特に聞いて密に喜んで居たことであるが、親しく此地に來て此の感を更にした。土地の廣さからいつても、保姆諸君の數からいつても、事を共にするに丁度いゝのである。殊に、將來のある名古屋保育界である。尙ほ遠慮なくいへば、もう一歩之れからといふべき名古屋保育界である。而して此の有望なる將來は市教育當事者諸君、公私各幼稚園のそれ〳〵有力なる園長諸君のお力と共に、保姆諸君の固く而して溫い結束によつてのみ期待せられ得るのである。萬々一、群雄割據の勢を呈する樣なことがあつたら、それは銘々自分で自分の神聖な仕事を破るものである、實に名古屋保育界の爲に、最も必要大切なることは、いつ迄も今日の如く、保姆諸君の結束と、協同の研究とによつて進まれることである。

三日間の豐なる感想と諸君の厚き好誼に對する感謝とを以て名古屋を立つたのは十九日の朝であつた

二

此の夏の保育講習旅行に於て、私の心に記銘すべきことはいろ〳〵とあつた。しかも、特に私として欣悅禁じ能はなかつたことは、名古屋から岡山へ、皇風幼稚園の朝倉甫綱氏、市立第一幼稚園の坪內キク子氏、佛陀會幼稚園の石田稷子此の三氏が、私と行を共にせられたことである。三氏とも、名古屋に於ける講習會の幹部の人々として連日何かとお忙しかつた。其の後を一休みする間もなく、引つゞいて岡山まで行を共にせられたのである。

汽車中の吾々の談話は、保育の問題から、いつの間にか、もつと他の問題に觸れて行つた。人の子の教育といふ問題から、自分自身の問題に移つた。昨日は、如何にして人の子を教育すべきかを考へた吾々である。明日は又同じく、人の子の問題を考へるべき吾々である。その間に、吾々は、教育者から全然自分に歸る數時間を持つたのである。

吾々の會話は靜かに續き、時に靜かに切れた。あの騷々しい亂雜と轟音との車室の中で、吾々の口は靜かに自分自身の爲に語り、吾々の耳は靜かに自分自身の聲を聞いた。而して其の相默して居る間々に、來りて吾等の心の傍へに居たものに、法念があつた。基督があつた。親鸞があつた。

斯くて夕波の須磨明石を過ぎて、夜八時、岡山に着いた。

夏休みを終つて

H　N　子

□

永いと思つた夏休みも愈々終つた。昨日から降り出した雨が今朝もやまぬ。折角の初登園に上天氣なれかしと念じた甲斐もなく、風さへ加はる暴れ模樣。

受持の子供の誰彼の顏を一つ〳〵思ひ浮べながら、登校の道を急ぐ。四月の入園以來永く附添をはなさなかつたSさん、また捻が戻りはしまいか。氣の弱いT子さんは少しは氣丈になつたかしら。あの丸い〳〵顏のKさん、永いお休みに大層肥つたと聞いてゐるが、どんなに丸くなつたろう。はにかみのYさんは、また今日も初めて私の顏を見たら、默つて私の袖の中に顏をうづめてしまひはせぬだろうか。「ちえんちえい！」としか云へなかつたMさんは、少しは舌がまはる樣になつたかしら、大きな體を大きな靴はいて、バタリ〳〵とあるくOさんは、あの上大きくなつて、嘸またドタリバタリする事だろう。

それからそれへと考へながら何時しか身は、校門を潜つた。雨は益々ひどく降つてゐる。今日ばかりは雨の音がひどく耳に障つて仕方がない。

□

今日こそは、一人一人子供を迎へて、我が心の中にシツクリと受入れやうと思つて待ち受ける。室の掃除も整頓も先づ出來た。玄關に出たり、廊下を歩いて見たり、室の中の小さな椅子に腰かけて見たりして。

S子さんが見えた。女學校の大きい姉さんに連れられて。サツサと姉さんの手から離れて私の所へ來た。「先生お早うございます」と。私が顏をのぞき込むと「フフ」と何とも云はれない嬉しそうな顏をして笑ふ。入園當時など笑ふ樣な子供になるかとさへ案じられたS子さんが、今日はもう默つて私の手を握つて嬉しそうに笑ふ樣になつた。續いてR子さん、

Y郎さん、S二さん、雨にもまけずに來られた。附添はれる母君やお附きの人々に、一通りの挨拶をするのに一しきりまた忙しい。その間子供達は我勝ちにもどかしそうに、私の手に、袴にすがりついて來る。母親達もニコ〳〵、子供達もニコ〳〵、先生もニコ〳〵、嬉しい氣分が雨に濕つた空氣に搖いでゐる。暑い夏の間を丈夫に育てて、再び幼稚園にと送り出す親の喜び、別れてゐてあゝかかうかと思つてゐた子供達に會ふ先生の喜び、好きな先生と、大勢の遊び仲間と、遊び場所と、遊び道具の備つた所へ來て、躍り出したい程の子供の喜び、室も廊下も玄關も今日は只喜びで充ち〳〵てゐる。

□

夜を日に續いでも遊びたりない樣なH吉さんやY造さんは、もう來るなり直ぐに、莚をひろげ、その上に座つて、積木遊びに餘念がない、「オイ君、隧道するんだよ！僕は今大きな長い汽車をつくるからね！」五六人此處へ集まつて來た。日に焦けた黑い顏、肥つた手足、見るからに丈夫そうである。六十日のお休みは何處へやら、まるで昨日迄幼稚園に來てゐたかの樣に、その續きでもあるかの樣に遊んでゐる。本當に本眞劍な「我」の充實に餘念のないこの時代には、一日は一日で初まつて一日で終る。その瞬間瞬間に生きるのであるから思ひ出ばなしや取越苦勞は不必要であらう。と思つてゐると、此方の方では氣のやさしいS子さんは此の夏海に行つたとて其の話をしてくれた。

「先生、浪の荒い時はね、河へ行つたの、手拭でお魚を取りましたよ。バケツに入れて來るの。鐵の粉があつてね、磁石へつけて遊びましたよ。和田さんの赤ちやんの百日――生れて百ねんねしたんですね――其時に御馳走がありましたよ」。と印象の深かつた事を時の連絡もなくポツリ〳〵と話す、頰の靨を深く作つて。尙も話を續けやうとするとYさんが「S子さん、蟬の拔け殼、ぬけがら！」。と呼びに來た。二人は裏庭に面した窓からのぞいて拔け殼を見てゐたが急に聲を揃へて、

「雨コン〳〵止んでくれ！あしたの晩に降つて呉れ！」

□

「先生、ト、(此處)」と右の眼を指して來たのはMさん。あどけない眼を一杯に開いて、また、いつもの樣に私の膝に乘つてしまふ。

「お眼はどうなさつて?」

「お醫者樣へ行つたの」

「そう、眼が惡かつたんですね」

「うん、海にト、(魚)ゐまちたよ。おほちな(大きな)ちと(人)ばかり取るの。兄ちやんも取らないの」。

さぞ漁師達の取るのが羨ましかつた事であらう。あの黃銅色の仁王の樣な體の漁師が掛け聲勇ましく網曳く樣子にヂット見とれたMさんは、どんなにかこの人達を偉くも思ひ理想とも考へた事であらう。

Mさんは相變らず舌がまはらない。しかし大きくなつたこと!重くなつたこと!

□

組の中で一番早生れのまた一番背の高いH子さんが、今日、T子さんと手を引いて歩いてゐるのを見るとT子さんの方が一寸も背が高くなつてゐる。T子さんの、このお休みの中に大きくなつたのには驚いてしまふ。よく、一枚の着物を同じ年の中に二度も腰上げを下ろす事があると聞いてゐたがT子さんなどは、きつと、その仲間であろう。僅か二ヶ月の間でも發育盛りの子供達は本當にメッキリ大きくなる。はにかむ子供も氣の弱い子供も見違へる樣にハキ〳〵として今日は遊んでゐる。氣を揉むものではない、あせるものではない、時が來れば皆それ〴〵に長所を發揮してよい子供になるものであるとしみ〴〵思ふ。

□

二時間に充たない第一日の幼稚園生活も子供には長くも思はれまた珍らしくも面白くも感ぜられたであろう。しばらく別れてゐて、何處かに物足らなさを感じてゐた私の心が、今日はギッチリ、隙間なしにつまつた樣な氣がする。また明日から忙しい、しかし樂しい日が繰りかへされる。有り餘る元氣で子供はぶつかつて來るに違ひない。私もお休みの中に貯へた餘裕を、力を、充分に出して、子供にまけずに、元氣に遊びたい。子供の心の中深く分け入つて行きたい。

雨の第一日はかうして暮れて行く。(九月十一日記)

フリードリッヒ
ヘッベル

わが幼時（二）

艶子譯

四

私が四歳になつた時に、私は或る代用學校に送られた。スザンナ先生――老嬢（オールドミス）で、身丈と云へば男の樣に高く懐（なつ）かしげな青眼は青黑い顏に一つの光明の樣に輝いてゐる――が此處の校長であつた。我々子供達は廣い客室に這入つた、これが教室にあてられてゐるので、やゝ暗く、一方の側には男の子、他方には女の子が壁のまわりにグルリと坐るのであつた。眞中にはスザンナ先生の机、ギッチリと教科書が載つてゐる。先生はここに席を占めて、白い陶器製の煙管を口に啣へ、また一碗の茶をすゝる。机の後の膝掛椅子の時代ものであるのが、何となく尊敬心を吹き込む。先生の前には長い定規があるが、之は線を引くために使ふのではなくつて、我々腕白者が、先生が顏を顰めたり咳拂ひしたりする位では、もはや制禦しきれなくなつた場合に我々を罰するために使ふのである。定規の傍には乾葡萄の入つた紙箱がある、これは非常な善い事をした時の褒美の品であるが、實際は定規でピシャリと打つ方が乾葡萄を呉れる事よりもズット規則正しく行はれた。否スザンナ先生はまことに乾葡萄を儉約して使ひなさつた。それのに時々この箱は空虚（からつぽ）になつた所から、我々はかのカントの無上命令法（註、人の性は善であつて利害損益をはなれた要素即ち良心が具はつてゐるとの意）を非常に早くから悟つた譯である。

大きい子も小さい子も机に向つてゐて、次々に先生から呼び附けられ、前方に進み出た生徒は書き方の授業を受け、後列の方は讀章を暗誦する、そして場合に應じて、或はかの定規で指を打たれ、或は乾葡萄の褒美にあづかる。またこの學校には一人不親切な下女が居た。よく處罰の役目に餘計な世話を燒いたり、のみならず教室を出たり這入つたりする。また時に年少の生徒がお粗忽をしてこの女中にとんだ世話をかける事もあるが、この下女は鋭い眼をして、子供達が持つて來たお菓子を、餘り澤山に、食

べはせぬかをよく監視してゐた。

この家の後側に小さな庭があり、スザンナの小花壇につゞいてゐた。庭では放課時間に我々は遊ぶ事は出來たが、花壇の方は全く這入る事は出來なかつた。此處には澤山の花があつた、あの珍しい花の姿の蒸し暑い夏風に搖めく樣子が今だに私の眼の前に浮んで來る。スザンナ先生は機嫌のいゝ時には、折々この花壇の花を摘んで私達に呉れるが、それも花がもう萎むと云ふその時で、それより早くこの園の裝飾を奪ふ樣な事は決してなかつた。花壇は小ザツパリとしつらへ入念に手入されてゐて、其間あいだにはごく細い道、やつと鳥がピヨイ〳〵飛ぶ事が出來る位の道がついてゐた。

スザンナ先生は子供に物を呉れる時に兎に角非常に不公平な分配の仕方をなさつた。有福な家の子はよい贈物を受けるし、又高慢な願も大威張りで云へるし、又云つてもおしなめられる事もなしに濟む。貧乏人の子供は殘り物を貰つても不平は云へなかつたし、また斯ういふ子供達はどんなものでもこの先生のこの恩惠をだまつて待たなければ全く外に貰ふ道はなかつたのである。

この不公平はクリスマス前夜には最も露骨に顯はれた。この時には澤山の菓子や堅果の分配があるが、しかし、この際かの福音書(聖書)の中にある「有てるものは與へられる」と云ふ言葉が最も忠實に守られるのである。教會區(註、一つの町の家を幾つかの教區にわけ組合をつくる)の書記の娘とか、權力のある尊重される人とか、醫者の息子達などは、菓子の半打やハンケチ一杯の堅果を貰ふ。之に反して貧乏人の餓鬼共のこの聖夜に於ける貰へる見込と云ふものは專らスザンナ先生の恩惠の手にかゝつて居るのであるが、誠に乏しく片附けられてしまふのであつた。この理由はスザンナ先生が返禮の送物を豫期するからで――蓋し亦、あてにせざるを得ないのだが――大骨折でやつと月謝を納める事が出來る樣な人達からは返禮など思ひもよらぬ事であつたから。

私は全然排斥されもしなかつた、と云ふのは、秋になれば、ちやんと定まつて我家の梨の樹からスザンナ先生へ貢物が獻ぜられたから。そしてまた私は、さなきだに多くの子供にくらべて「頭がいい」(スザンナ先生が曰ふ事だが)と云ふ譯で優遇されはしたが、然しながら、私は差別と云ふ事をつく〳〵感じ

た。またこの學校の女中の爲め苦しめられねばならなかつた、それはこの女中が、私が無邪氣にする事を惡意に解釋する、例へば私がうつかりハンカチを擴げてゐると、「あれはハンカチ一杯何か貰ひたい印だ」ととる、かう解釋されると私は頰が灼ける計りに恥しい氣持になり、眼には涙が一杯になるのであつた。

スザンナ先生の不公平と、下女の不都合な行とを私が意識するや否や、私は幼年時代の不思議な樂園を通り過ぎてしまつた。こは極めて早い時期に起つた事であつた。

五

然しながら、今や私は此のスザンナの學校に居つた幼年時代に二つの要點に觸れた事を目前に顯然と思ひ出す。

先づ第一に私は、自然及眼に見えざるもの——豫覺に富んだ人は自然の背後には神ありと想像するが——から最初の恐しき印象を受けたのであつた。

子供には斯う示ふ時期がある、(この時期は可成永く續くものであるが)卽ちこの世界は兩親の手に、殊にも何となく幾時も黑幕に立つて居て神秘に充ちてゐる父親の手に、委ねられて居るものと信ずる。そしてまた兩親に玩具をねだれば直ぐに貰える樣によいお天氣が欲しいと云へばそうして呉れる力があるものと思つてゐる。しかし、この時期も勿論終りが來る。卽ち、子供が、自分達に罰が有難くないと思ひながらも之は子供だからどうにも避けられぬと思つてゐると、兩親にもまだ、どうする事も出來ない嫌な事が起つて來る事を知る樣になる。と同時に兩親の神聖なる頭を取りまいてゐると思つて居た一種神秘的の魔力の大部分はこの時除かれてしまふ、卽ちこの尊敬する時期が過ぎ去ると此處に人間本來の獨立心が初まつて來るのである。私がこの期に目覺めたのは暴風雨の日の事で、この日は雷鳴、降雹をともなつて誠に恐しい日であつた。

ある蒸し暑き夏の日の午後、地面は皺び割れ、あらゆる生物は燒き焦がされる樣な日であつた。私達子共は物倦く、壓しつけられる樣な氣分で、或は問答書を或は入門書を手にしながら、ちらばらと彼方此方のベンチに腰掛けて居つた。スザンナ先生はコクリ〳〵とねぼけ眼で船を漕いでゐるので、我々の

惡戯をまことに寛大に見逃した。惡戯でもしなければ到底私達は眼を覺ましてはゐられない。全く蠅さへも羽音をたてない。尤も極く小さい虫は飛んでゐた、いや實際、小さい奴はどんな時にも元氣のよいものである。

時しも俄かに雷鳴が轟き渡つた。古き住み荒されたこの家の虫喰つた桁がドシンと音がしてガタ〳〵〳〵と後鳴りがする。今や恰も北國に起る嵐の樣に凄しき雹まぢりの風となり、一分と經たぬ間に風に面したあらゆる窓を粉碎してしまつた。その直ぐ後で、否、それとまざつて豪雨が降つて來て、今にもノアの大洪水を引き起すかと思はれた。

我々子供は驚いて飛び上り、呼び喚いて上を下へと走りまはる。スザンナ先生御自身はのぼせ上つてしまつて、もう役に立たない時分になつて漸く、女中に命じて雨戸を締めさせる、いや役に立たなかつた計りでなく、既に水が室に這入り込んでしまつてゐるので、その大氾濫の上に一層の恐怖を高め、また物を打壊はすやら大混雜、その上に眞にエジプト的の眞暗闇（註、舊約聖書出埃及記中にあり、モーゼがイスラエルの民を率いてエジプトを出づる時に起りし事）を引し起したわけであつた。

しかも、一つ雷鳴と次の雷鳴とのその間に、スザンナ先生は辛うじて我に返つて、子供達を見廻ると子供達は年齡相應に或は先生の前掛にブラ下り、或は自分で眼を閉ぢて隅の方にうづくまつてゐる。先生は力の及ぶ限り或は慰め勵まし或はなだめる。所がまた急に青い焰の樣な光が雨戸の隙からピカリと來ると、出かかつた言葉が先生の唇の所で死んでしまふ。その間にかの女中は殆ど赤坊の樣にひどく怖がつて「ア、、神樣がご立腹だ……」と云つて泣き出す。また電光が消えて室内がもとの暗闇になると、先生は教育的の口調でブツ〳〵呟きながら附け加へて曰く、「お前達は全く何の役にも立ちはしない」と。この言葉は、よしそれが先生の不機嫌から出た言葉であつたとしても、私には實に深い印象を與へた。即ち私は私自身に對し、また、私を取卷く種々のものに對して、目に見える以上のものを仰ぎ見て、こゝに宗教的の閃きに火を點じたのであつた。

扨學校から自分の家に歸つて見ると、こゝにも亦破壞の暴行が行はれてゐた。庭の梨の木は熟りかけたその實がたゝき落された計りか、葉が皆なくなつてしまつて丁度冬時の樣に裸になつて立つてゐる、

また非常によく實の熟る梅の木、その實は家の者ばかりでなく、この町の家の半分また可成に廣く散在してゐる知己にまで分け與へるのを常として居つたのだが、この木が夥しく枝を失つて、丁度腕をなくした不具者の樣になつてしまつた。未熟のままで實が落ちたので、母には、飼つてゐる豚が向一週間御馳走があつて善いと云ふ事で、せめてもの慰めになつたが、私は全くつまらなかつた。唯、澤山其邊にある硝子の破片をとつて、世にも一番容易い方法で濕つた土を裏面に擦りつけて最上の鏡を造り、これでせめて取返しのつかない秋の喜び(果實の取入れ)の補償にと思つた。

しかし此時から私は、何故父がいつも日曜日に教會へ行くのか、何故私はサツパリと洗つたシャツに手を通す時に「神よ守らせ給へ」と云はなくつてはいけないのか、と云ふ事が解つた。私は萬物の主の主なるものを知つた、その主の憤怒せる僕、卽ち雷とか電光とか、霰とか嵐とか云ふものが私の心の入口を押し開き神が非常な力で私の心の中に乘り込んで來た。其後間もなく、私は、或は風がひどく煙突から吹き込む晩、或は雨がバタ〳〵と屋根をうつ夜、私が寢床に入れられてゐるその時に、これ迄私がたゞ唇で器械的に覺えた喋々が突然、赤心からの不安のための祈禱に變ると云ふ內的變化を來す樣になつた。こゝに於て、是迄取分け兩親に結びついてゐた私の精神的の臍緒が裁ち切られたのみならず、間もなく私は、私が兩親から惡るく取扱かはれたと信ずる場合には、父や母の事を神に訴へ始めると云ふ所まで進んで行つた。

更に此のスザンナの學校にある間私は最初の、恐らくは最もにがき苦行をしたのであつた。今私が云はうとするこの事を明らかにするためには私は詳しく述べなければならない。

ごく小さい子供達の學校に於ても、後年大人になつてからこの世で一層濃厚な度合に於て出會ふ樣なそう云ふ種々の要素が、既に備はつて居るのである殘忍性、狡猾、下等なる智慧、僞善などは皆既に代表される、そして偶々純なる心情は、丁度、かの野獸の中に立つアダムとイヴの畫の樣で誠に倚りない姿である。この性質の中のどれ丈を生れ付きとすべきか、どれだけを最初の教育に、或は家庭が教育を

等閑にしたと云ふ事に歸すべきか、此の問題は此處には決定せずに置かう。が、事實は疑ふ餘地がないこれはまた私の生地、ウエッセルブーレンに於ても事實であつた。

鳥を生きた儘で毛を拔いたり、蟲の足をもぎ取つたりする亂暴な男の兒より、入門書の中から其處に挿んである五色の不審紙を盜む本式の不良少年に到る迄、あらゆる種類のものがこの學校に居る。少し人が善くて、そのため虐められる樣に呪はれた學友達が、その惡友が何か惡戲や隱謀の種になる樣な事をすると怒りの餘り時々豫言する、(例へば虛言つくと泥棒になるよ、などゝ云ふ)するとその豫言した運命が、かゝる惡友の一人ならず多くの者に、文字通りに實現して來るのであつたこのやくざ者(不良少年)は、いつも、またそれ丈に誰にその鑿を最初に又一番鈍く突き込むかを知ると云ふ本能がある、さればこそ私の樣に見込まれた者は一番長くひどく虐められたわけである。

或る時は彼(不良少年)は如何にも熱心に問答書を讀んでゐる樣な風をして、本をピッタリト顏につけ紙越しに、實に聞くに堪えない種々の事を耳語し、また私に問ふて曰く「君は、子供と云ふものは井戸から出て來て、鴻の鳥がそれをくはへて來たなどと云ふ事を本氣で聞く程そんなに馬鹿なのか」と。

また或る時は他の子が私に呼びかける「君、林檎が欲しいだろう、欲しけりや僕のポッケットから取つて行き給へ、僕、君の分も持つて來たから。」と。そこで私が一つ貰ふと、彼は「スザンナ先生！ 僕は盜まれました！」と叫ぶ。そしてたつた今云つた言葉を否定する。

また或時は、本に唾を吐きかけるのみならず、直ぐにオイ〳〵泣き出して、厚顏にも私がそれをしたのだと主張する。

かうした惡戲に私は殆ど一人で身をまかせた。と云ふのは一面には私がこれをムキになつて受取つたのと、また一面には私が大變に無邪氣なために私にする惡戲は、いつも成功したからであつた。そこで惡戲と云ふ惡戲を、私は實に例外なしに甘んじて受けなければならなかつた。

その上にこの學校には、また背のヒヨロ高いよく虛僞をつく不良少年が二三人は居た。彼等は私などよりは遙かに年取つてゐるのに、それでもまだABCの級(下級)に居たが、時々學校をヌカレ休みをす

る。彼等はヌカレ休みをしたために二倍も三倍も退屈する計りだが、さりとて家に歸るわけにも行かぬ、又遊び仲間は皆學校に行つて居らぬし、誰もかまひつけぬ、そこで或は垣根の後に隱れ、或は涸れ切つた水壕の中で待ち伏せする。遂に放課の鐘が鳴ると彼等は居るべき所に居つた樣な顏をして、學校歸りの我々に混つて家に歸つて行く。

然し、彼等はこの日の埋め合せをせずには置かない、誠に念の入つた後續きのする惡戲を考へる。卽ち翌日學校へ來ると、前日のその冒險を私達に報告する。「思ひがけず父がすぐ側を通つた。よく僕を嚇つけるあのスペイン製の籐ステッキを手にもつてサでもとう〳〵見付けずに行つてしまつたよ」とか「母がスピッツ(犬の名)をつれて壕の所へ來た、犬の奴め僕をとう〳〵嗅き出したものだから見つかつてしまつたサ、しかしね、『スザンナ先生から云ひつかつてカミレッ草の花を摘みに來たんです』とうまく虛言をついてのがれたのサ」などと彼等は胸つき出して、恰も古參兵が新兵にその手柄話をするかの樣に物語る。扨彼等は最後にかう云ふ敎訓をする、「僕等はヌカレ休みをするのは實に鞭やステッキに對して の大冒險なのだ、君等はしたつて、たか〴〵細い鞭で一寸觸はれる位のものぢやないか、それのに君等は臆病で、冒險しないんだねえ」と。この話がまた此時一人の靴直しの忰が癒になる程脊中を擲られて學校へ來た、そして我々に報告して云ふのに、「僕の父が僕を捕まへて、膝紐(註、靴屋が仕事の際に膝に結ぶ紐)でひどく折檻した、が僕は臆病者ぢやないから、こんな眼にあふ程これから、もつと、惡戲してやらうと思つた。」と。

かう云ふ話を聞かされた私は「已れも一つ勇氣を見せてやらう」としかもこの同じ日の午後に決心した。母が例の時刻に、喉のかはく時の用意にと水々した梨を二つ吳れて、私を送り出した。私は學校へは行かず、しかし、胸をドキ〳〵させながら、不安氣に後を覗ひ、よく偵察しながら隣の指物屋の材木小屋に這ひ込んだ、この時、指物屋の息子——私よりもズット年とつて居て、もう父の手傳ひをして働いてゐるのだが——私を勵ましてまた助力して吳れた此日は大變暑くて、私の此の隱れ家は誠に黴臭く誠に薄暗い。私は二つの梨を永くは持つていなかつた

がこれを食べる時にはまた大に良心の責苦を受けた一匹の老猫が子猫と一緒に奥の方に蹲まつてゐる、この猫は私が一寸身動きをしても、直ぐ怒つて喉を鳴らすので全く厭ではあつたが、しかし私のせめての氣晴しとなつた譯であつた。いや、罪は適面に罰を導いた、私は時計が十五分に、三十分に、チーンと鳴るのを一ッ殘らず數へた、その音は、けたゝましく、恰も威嚇するが如くに高い塔の上から鳴り響いた。私は果してこの小屋から見付からずに出られるかしらんと全く心配し拔いた。もう、翌日學校で手柄顏に報告するあの祝すべき凱旋の望みなどはごく束の間しか考へなかつた。既に時刻は大分遲くなつて來た。私の母が庭に出で、樂しさうに心地よさそうに其邊を見廻しながら井戸に水汲みに行つた。母が恰ど私の傍を通り過ぎた！もうこれだけで私は息がとまつてしまつたのに、私の秘密を知つてゐる親友(指物屋の人)が突然母に聞いた、「クリスチアンさんは何處に居るか御存知かね」と。母はやや躊躇する樣に、しかし「スザンナ先生の所さ。」と云ひ切つた。すると揶揄ひ半分に、意地わるく附け加へて「いや、いや、そうぢやない。猫の傍だろう！」と瞬きをし横目をつかひながら私の隱れ家を敎へてしまつた。あゝこの時私の氣持はどんなであつたろう！。私は怒りのために我を忘れて飛び出した。私は笑つてゐる裏切者を足で蹴つた。母は顏中一つの焰となつて水桶を片隅に置き、もう學校がひける頃なのに今からでも學校へ行けとて髮の毛と腕とを捕まへた。私は振り放した、私は地面を轉がり廻つた、私は叫んだ。喚いた。しかしすべては無駄であつた。到る所に讚め者であつたおとなしい可愛いゝ子がこんな惡る者である事を認めた母はひどく立腹して、私が何を云つても耳を貸さぬ、たゞ無理やりに私を引摺つた。そして私が尙も續けて反抗したがそうしたために、たゞ町の家々の窓がすべて押し開かれて見物人が澤山窓から首出したと云ふ結果になつた丈で私はどう仕樣もなかつた。學校へ着いた時は丁度今退ける所であつた。生徒等は私のまはりに集つて私を罵り私を嘲つた。母の折鑑があまりに嚴しいと見て取つたスザンナ先生は、私を慰めやうと試みた。この時以來、私はあの排列鞭刑(註、兩側に鞭をもつて立つてゐる、その間を罪人が裸体で通ると云ふ罰)をうける人がどんな氣持のするものであるかが解つた樣な　がする。

雜報

○日本幼稚園協會常會

本會の十月常會は臨時休會致しますから左樣御承知を願ます。

○第二回全國幼稚園關係者大會の文部省諮問案及び協議題

一、文部省諮問案
幼兒ノ各年齡ニ適切ナル保育事項

一、協議題
（協議題ハ類似ノモノヲ取纏メ到着順ニヨリ排列セリ）

大阪市保育會提出

以上

一、第一回全國幼稚園關係者大會ニ於テ其筋ニ建議シタル公立幼稚園ノ園長保姆ノ資格及待遇ニツキ其實施ヲ促スコトヲ再ビ建議スルコト

（參照）

1 幼稚園保姆ノ資格ヲ正准二種トシ正保姆ハ小學校ノ本科正教員准保姆ハ尋常小學校准教員ト同等以上トナスコト
但勤續十箇年以上ニシテ成績優良ナル准保姆ニ對シテハ無試驗檢定ニヨリ正保姆タルノ資格ヲ與フルコト

2. 前項ノ資格アル公立幼稚園ノ園長保姆ニハ市町村立小學校教員ト同一ノ待遇ヲ與フルコト
但從來ノ保姆ニシテ勤續十五箇年以上ニ亘リ成績優良ナルモノニハ特別待遇法ヲ設クルコト

（內容說明）
市町村立小學校教員ノ受クル年功加俸、休職給、疾病療治料、免許狀共通等ノ特典ヲ幼稚園長保姆ニモ與ヘラルヽ樣規則ノ改正ヲ希望スルニアリ

靜岡縣保育會

二、公立幼稚園長保姆ニ對スル待遇ヲ改正セラレタキ件
但小學校教員免狀ヲ有セザル園長保姆ニ對スル場合
1. 公立幼稚園保姆ニシテ五ヶ年以上奉職シ成績佳良ナルモノニハ年功加俸ヲ附セラレタキコト
2. 同前十五ヶ年以上奉職シ退職ノ場合ニハ退隱料ヲ又十五ヶ年ニ達セスシテ退職ノモノニ對シテハ退職給與金ヲ支給セラレタキコト

京阪神聯合保育會提出

三、幼兒ニ文字ヲ教フルノ可否

廣島縣三原女子師範　米山えん

四、幼兒ノ文字欲ニ對スル取扱方法如何

富山縣女子師範學校附屬幼稚園

五、幼稚園時代ニ於テ文字並ニ數ノ初步觀念ヲ與フルノ可否、若シ可ナリトセバ之ガ方法ト程度如何

京都市保育會提出

六、幼稚園ニ於テ滿五歲以上ニシテ發育良好就學ニ堪フト認メタル者ニ限リ小學校ニ入學シ得ル樣法令ヲ改正セラレンコトヲ其筋ニ建議スルニト

理由

必ズシモ滿六歲ヲ待タズシテ就學ニ適スルモノ少カラザルハ醫學者心理學者ノ認ムルトコロニシテ現ニ或部分ノ園兒ニ對シ文字ヲ教フルニ堪フルコトハ本會ノ經驗シタル所ナリ既ニ斯ク發達シタル兒童ヲ更ニ一年間幼稚園ニ停滯セシムルコトハ國民ノ能力ヲ向上セシムル上ニ於テモ甚シキ損失タルヲ免レズ殊ニ修學年限短縮ノ喧シキ我邦ニ於テハ特ニ此點ノ改正ヲ必要ト認ム是レ本問題ヲ提出スル所以ナリ

富山縣女子師範學校附屬幼稚園

七、小學校トノ連絡上幼稚園手技ヲ整理スルノ要ナキカ、若シアリ

トセバ程度分量如何

八、幼兒ニ敬神尊祖ノ念ヲ養フ方法如何　私立　小田原幼稚園

以上

研究又ハ意見發表題

一、幼兒ノ畫キ方ノ實際案　廣島縣三原女子師範學校　保姆　米山えん

二、神戸市幼稚園ニ於ケル滿五年六年幼兒ノ身體及精神ノ正常標準　神戸市保育會

三、林間保育ノ成績　兵庫縣篠山小學校兼幼稚園長　同　久代省三

四、文字教授上ノ幼稚園小學校連絡問題　名古屋市立第一幼稚園

五、我園最近ノ保育方法ニ就テ　明石女子師範附屬主事　及川平治

六、保育科目ニ就テ　富山縣女子師範學校附屬幼稚園

七、幼兒ノ畫キ方ニ對スル研究

八、幼兒ノ文字學習力ニツキテ　京都市豐園幼稚園

九、幼兒體溫ノ擁護ニ就テ　京都市私立京都幼稚園

一〇、自然物ニ就テ　大阪市西區江戸堀幼稚園

一一、保育上ノ所感　大阪市東區愛珠幼稚園

一二、大都市ノ子供　大阪市醫　竹村一

一三、人生ノ三大教育　福島縣私立博愛幼稚園

以上

○大分縣高田町成蹊幼稚園十周年記念式

高田町成蹊幼稚園にては去る九月十四日左の如く記念式擧行したる由

當日は午前六時を合圖に花火を打あげ同十時記念式(着席、挨拶園長天門成章、國歌勅語奉讀誨告祝詞唱歌)十一時園兒遊戯唱歌、記念撮影、正午　祝宴會、午後七時　提灯行列、八時　演藝會

一、來賓ノ主ナルモノ、重信理事官、郡長岡本保三、町長吉野松太郎、貴族院議員清末新郎治、大分循誘學館副館長篁園誓鐵、長淵桂陽高田吳崎各小學校長、板井署長、各町會議員、縣會議員高井佐市。

二、祝詞岡本郡長、吉野町長、幡三浦校長、岩井京都幼稚園長、保護者總代加來弘。

三、祝電　佛教大學長園田宗惠、文學博士谷本富、醫學博士安藤畫一、大分監獄典獄住江敬義、大分教養院長大在達至、大分師範校教諭八丁春太郎、大分郡視學齋藤俊次、田原校長小野興十郎。

四、祝宴會。挨拶園長天門成章祝詞、町長吉野松太郎、萬歲三唱岡本郡長、三百名列席、記念盃ヲ呈ス

五、提灯行列　園兒及小學生中學生女學生保護者合シテ八百名園旗大提灯ヲ先頭ニ所内ヲ廻ル一定ノ提灯ヲ園ヨリ渡シ保護者ニシテ七八名化粧ノ者加ハル町内人山ヲ築キ

六、演藝會。音樂講演ノ二部トシ桂陽校職員東逞氏ノ挨拶園兒合唱三回小學生女學生合唱獨唱水江大檢校ノ琴別府管絃團員了戒包氏ノヴアイオリン等妙技ヲ演ジ拍手喝采ヤマズ次ニ乃木會特派員吉田幸雄氏乃木大將ノ幼時ナル題ノ下多大ノ感動ヲ與ヘ光内寺本堂立錐ノ余地ナシ。夜ノ余興ハ共ニ空前ノ盛擧ニシテ町内ニ歡聲溢ル

七、裝飾　園舍及境内萬國旗及手工品及終了生ノ成績品ヲ以テ充サレ前園長難波十洲前保姆野村霜子ノ寫眞ハ花環ヲ以テ裝飾シ記念額ハ東逞氏ノ作ニシテ精巧ヲ極ム(主任保姆、西八千代記)

保育手段としてのお話（一）

＝講演の梗概筆記＝

倉橋惣三述

序

これから保育手段としてのお話に就て御一緒に研究する。しかし、幼稚園の教育が、お話でなければならないと云ふのではありません、製作に就いて話した時には恰も製作でなければならないやうに製作に就いて力説致しましたがそれだからと云て保育が製作に明けて製作に暮れなければならないものではありません。お話に就ても同樣です。幼稚園の教育が一方に、偏すと云ふ事は喜ばしくないのであります、或一事が園の傾向になり其事に就て得意を以て誇るといふ事は幼稚園の教育では邪道であります、保育手段によつて其園が型作られて行くと云ふ事は避けべき事であります。特色を問はれても答へる事の出來ない。（其は何もして居ないので答へられないのではいけませんが）、あれもこれも爲て居て、何れと云て取り立てられない幼稚園の教育が良いのであります、それですから、お話は、幼稚園の中心でもなく、全體でもありません。或は又他の教育説の樣に之が私の殊に主張する幼稚園の教育と云ふのでもありません。之れは誤解のない樣に願ます。

第一　保育手段としてのお話の本質及價値

お話の定義、お話といふ言葉はいろ〳〵の場合に使はれますが、保育の手段として茲でいふお話は、お話そのものが主になつて居るお話であります。即ち吾々が日常使ふ所謂用談＝實際上或目的を達する爲

の一の方法に使はれる話、或は閑談＝人あり、人ありて互に語りたいから語る、お茶を飲みながら四方山の話をする或は議論の爲の議論と云ふ樣なもの、など、區別して置きます。其のものが純粹に主になつて居るものを一般に藝術的だとすれば、こゝに云ふ、お話は卽ち藝術的なものであります。

お話の起源。そこで、斯ふいふ純粹なお話は、どうして出來たか。卽ち、幼稚園で私共がお話を用ふるといふ問題の前に、人類所有品としての、お話は一體どうして出來たものかと云ふ事を考へて見る必要があります、それには人間文化の發達を逆昇て、吾々の文化の根源たる原始人に就て尋ねて見るのが一番いゝのであります。そうすると、原始人は吃度次の樣に答へます。『吾々の持て居るお話は天から與へられたのだ。』と扨て此天からあたへられたと云ふ答を其まゝ心理的に解剖すれば、語らざるを得ざるの心理狀態に他なりません。その腹ふくれざるを得ずして語たお話を、敬虔な原始人は自分の話、人間の話とはしないで天から聞いた、ものだと云ふのであります、而して此のざるを得ざる、內からの心持の强さは實に吾々の計り知られないものであります、しかもあの眞純なる原始人の生活は悉く此のざるを得ざるの生活であつたのであります。

扨て原始人のざるを得ざる事の形式に三つあります。其の一つは舞踊でありまず。嬉しくてたまらなくなり、而白くてたまらなくなり踊らざるを得ずして踊るのであります、悲しみも喜びも總ての感激を頭だけで處理して居る文明人に比して原始人は身體全體で生きて居ます、原始人の感激は身體全體のものであります。次は歌謠であります。

本來は舞踊歌謠は多くの場合相結び附いたものであります。然し、あの沈み行く日を見ながらうつむいて、岩に腰かけ、悲しみの餘り訴へる樣な場合の原始人の哀歌は、舞踊に對してはよほど獨立性を持て居ます、私は之を舞踊から獨立させて考へたいと思ひます、第三は卽ちお話であります。舞踊を喜びから、歌謠を悲しびからの、ざるを得ざるの表現生活として、此處に驚き、怖れ、憧憬、といふ樣な場合其時は踊りも出來ず歌ひも出來ず、身體も心も固く小さく緊縮してしまふ事があります。そこで、この驚嘆にうたれた人は一散に自らをかかえて逃げ歸るか、又は驚きの餘り其場で氣絕して仕舞ます。暫く

して吾に歸た時、後から、實に後から、其過ぎた怖さを、物語るのであります。ですから、原始人の話は皆驚きの調子を主として居ます原始人の「自然神話」でも「英雄談」でも、つまり自然界に對する驚きと、自分達の群を拔出た强い人間に對する驚きとに他なりません。從來歌謠舞踊に對してその眞純な原始性に於て多少違つたものとされてありましたお話は、かうした見方から、前二者と肩を竝べた同じ性質のものになるのであります。

話し手と聽き手。 扨てお話には必ず、話し手、と聞き手、と二つがありますが、彼の氣絕したほど驚いた話し手の話を、聽き手も矢張り同じ樣な强さに驚いて聽くものとしたら、聞手は話し手に、もう止めてくれ、と云ふに違ひありません（怖さに堪へきれないで）。然し聞き手は話し手程に驚いては居ないのであります。聞き手は怖さに息がつまつて氣絕しはしない。寧ろ其怖いのを樂しむと云ふ餘裕があるのです。話し手に取ては實に事實であつたのが、聽き手にとつては翫賞となるのであります。詳しくいへば、其處には怖さを聞いて樂まふとする一種の遊戯的欲求があつて、その欲求にぶつかつて來る處の滿足が味はれるのであります。原始人の話し手と、聞き手との間に此の差があり、そして此聞き手の心持が今日の幼兒に於て同じ樣に存するのであります之が幼兒教育に保育手段として、お話、が用ひられたる一つの理由であります。

お話の形式的價値、 お話の保育手段としての形式的價値は味はふといふ事にあります。味ふといふ生活は自ら製作してゆく生活の樣に、次から次へと忙しく働いてゆくのではありません。人生には作り、作り、作つてゆく季節的な態度が極く必要であることはいふ迄もありません。しかも、靜に、しんみりと、ものを味つてゆく、落ちついた態度も是非ほしいものであります。餘りに作業本位、製作本位のみになりますと、此の方面の教育が缺けないとも限りません。そこへ、繪を見るとか、お話を聞くとかいふ保育手段が、必要になるのであります。

お話の內容的價値、 原始的お話の內容は分化せざる形に於ての話し手の科學觀哲學觀道德觀宗教觀、が混然としては入て居るのであります、處が理智な文明人が冷靜になつて驚くといふ感じのなくなる處に科學、哲學、道德、宗教、が分化して來るのであ

ります。お話は分化しない處に講釋も說敎も、及ばぬ實に他を以て代へがたき價値があるのであます、而るを今日の吾々はこの科學、哲學、道德、宗敎をよそにして外に一つの話、卽ち童話を作らうとするのであります。然しお話の本質は、內容としての本質は、話し手がお話そのものをする事に依て其人の科學觀、哲學觀、道德觀、宗敎觀を語るのであり、聞き手も亦靑年期に入て學校などで聞くのとは違ひ混然たる形ではあるが、其不分化狀態に於てやはり哲學を科學を道德を宗敎をうけるのであります。卽ちお話は、不分化狀態に於て話し手の科學觀、哲學觀道德觀、宗敎觀を與へるのであります。

お話は決して、にはか芝居ぢやありません、ふざけではありません、笑談ぢやありません、お話には云ふに云はれぬ嚴肅さと深さが含まれてあります、幼稚園は修身を修身とし道德を道德として語りたくありません、然しお話の中には之等のものが潤澤にふくまれて居るのであります。あの哲學を哲學とし、科學を科學とし道德を道德とし、宗敎を宗敎として話すのは分化を欲する話し手の自已徹底に外ならないのであります。

第二　お話の心理的內容

これまでは保育の手段として、お話そのものに就ての研究でありましたが、之れから、お話を聞いて居る子供の心理的內容がどういふ風になつて居るかと云ふことを考へて見ませう。簡單にいへば、お話はつまり子供にとつて其の想像作用、を刺戟して來るのでありますが、そんなら子供の想像はどういふものかを考へて見ねばなりません。

イ、再生的な問題。 お話を聞く時の子供の想像は智的に解釋すれば一種の再生作用が盛に起つて居るのであります。現在生活ではなくして嘗て見嘗て聞いたものが出て來るのであります。たとへば甲の話を三度聞くと致します。すると甲(二)の場合には甲(一)を再生し甲(三)の場合には甲(一)と甲(二)とを再生するのであります、然し此處に初めて聞く乙と云ふ話があるとします。すると、之は出しぬけに與へられる樣でありますが、然し之も一種の再生的聞き方をせられるのであります。それは乙と云ふ新しい全體ではなく乙を組み立てゝ居る部分々々がやつぱし子供の心に再生して居るのであります。子供にとつ

てまるで新いお話をする時、そんな事があるのかといふ風に聞いてゐる樣に見える子供の心は、矢張り再生で落ちつき、又まとまつて來るのであります。此意味に於て、話して居る人の話と聞て居る方の話とは必しも同じでないかもしれません。私が話して居る事は確かに受け取られては行きますが、子供自身の持てゐるものを再生して聞いて居るのでありますから、私の話として聞いて行くか、又はまるで違た其子自身の再生として異つた形で聞いて行かゞ嚴密には分らないことです。お話を擇ぶのに子供の年齡に依てするといふことは確に大切な注意ですが、又一方から見ればどんな話でも子供には相當に受け取られて行くのであります、それは子供に自分勝手な再生を持て聞くからであります。兄弟して聞く話は同じ一つの話であつても、兄は兄の持て居る再生で、弟は弟の持て居る再生で別樣に聞くのであります。新しいお話は子供が消化するのには相當に骨が折れます、其れは自分の持て居るものの再生に骨が折れるのであります。話し手の想像作用に依て話が作られると云ふ事はいふまでもない事でありますが、聞き手も亦想像作用に依て聞くのであります。お話が時間と空間を越超してゐると云ふのも此の爲です。つまりお話の世界では時間の長さが(數量形態も)極めて判然限られないのであります。大入道の大きさは唯大きいと云ふ事を自分相當な再生で考へる丈で誰も其大きい數量を知てゐる者はありません。故に大入道は無限に大きく成る事が出來るのであります。私共より無量に大きく再生し得る子供に取ては其數量の知られない處に非常な面白みがあるのであります。私共の話が其まま受け取られず違て聞かれると云ふ事は、何だか情無い樣な感じが致しますが、子供は私共よりももつと面白くして(想像で)聞いてくれるといふ點に於て、又喜ぶ事も出來ます。

一體此の頃のお話は餘りに細く記述し過てゐます其は私の、自分の考へて居るものだけを子供に制限して與へると云ふ事になります、たとへば大入道は屋根より大きいと云ひますと屋根よりと云ふ話し手の小さい記述に依て己に大きさを制限されてしまふのであります。

四、欲求的な問題、更に之を情意的の方面から見ますと、欲求的と云ふ事になります。子供が存分に自由に想像をして來ますのは刺戟に依て次へ〳〵と

欲求が出て益〻強くなるのであります。たとへば桃太郎の話をするにしましても知的には、桃太郎の着物や刀を再生しても情意的には、力が強いとか偉いとか云ふ事から桃太郎をして斯うさせたい、勝たせたい、その次はかう、と欲求に欲求を以て聞く子供の心は實に急がしいのであります。(芝居を見る時に次の幕をかくあらせたいと思ふ成人の心持は卽ちお話を聞いて居る幼兒の欲求と同じであります。)其故お話の中途でポーズ(これは仕方の時に又申しますが。一寸言葉を切つて休むのです。)をしたあと、それが長いと子供は「それからどうしたの」と聞きます。其心持の中にはかくあればいゝ、かくあつて欲しいと云ふ強い欲求があるので單にどうなるかと云ふ期待丈けではありません。かやうに過去を再生し次を欲求して聞いてゐる聞き手は恐らく、話し手よりも急がしく心を働かせて聞いて居るのであります

普通の心理學では想像を構成、受動の二つに分けます。畫方の想像は構成的であり、畫の夢の狀態の想像は受動的でありますが、お話の場合の想像は、この兩者を含むのであります。發動的で受動的な一種特別なる心理狀態が現れて來るのであります。形から見ると話手が働き、聞き手は受取手の樣に見えますが、しかし聞き手はこの絶え間ない欲求に依て決して單純なる受身の場合ではありません。この意味に於て話し手は聞かせ手ではなく想像を起させる道具だともいへるのであります。

第三、お話の撰擇

一體幼稚園で保育と云ふものが保姆と子供との間にはさまつてあるのではありません、或考へ方で行きますと特に教育の爲に或目的を考へますが、私の云ふのはさうではありません、保姆は自分といふものの中で保育をしたいのであります、それは、あなたは自分の愛する子供をどう育てるかと云ひますのは、あなたは自分がどうならうとするのかといふ事と同じなのであります。教育は其人から流れて來るのであります、保育を行ふ爲に保姆が雇はれてゐるのではありません、教育は教育者自らを除て外にはありません、もし園長が其園へ初めて來た保姆に、どうか此園にお出の間は云云にしてもらいたい、と云ふことは云ふべくして行はれません、それでは教育の力はなくなつてしまひます、あなたがいゝと思

ふ處を、あなたの趣味あなたの主義、あなたの教育を與へて下さい、と云ふのが力强い教育であります自分に托された子供を自分にとつてかくありたしと思ふ事より外につれて行く道はありません。かくも大膽であれと云ふよりは、眞實であれ、あなた自らに眞實であれと云ふより外に出來ません。さうする事に依てのみ教育が可能であります。教育者をはなれて教育はありません、もしあれば其は空論であります。そこでお話の擇び方に就ても、私はやつぱし自己に忠實なれと云ひます、自分の趣味に合する事自分の面白いと思ふ以外に擇ぶものはありません。

イ、自分から見た擇び方　實際お話は、本質や撰擇をどうかうと云ふのではありません、實際問題として一番大切なのは仕方であります、しかしするとすれば、まづどれをするか、何をするかといふ處へ來ます。それは自分の一部分が語られる樣な話をするより外にありません、總て教育者と子供との問題は與へ方であります、例令は心理學者として、玩具屋として、は玩具の研究もしませうが、教育者としては玩具は受持の問題であります。お話も同樣です。

ブライアントがあの「三の豚」のお話がいゝと云ひました。あの人がいゝと云たから自分もするのぢやだめです。それでは話としてはよくても教育としては死ぬのであります。自分から見た擇び方、これは樂の樣で實際はこれできめて行くのは骨が折れます。話の本質は始は自己の經驗（驚）を語てゐるのであります、吾々は此處に於てどこまで話し手が其話の中には入てゐるかと云ふ事が問題であります外の世界には外にたよるものがありませうが、お話といふ藝術の世界では自己にたよるより外にはありません、と同時に自己に眞實でない話はしないのであります。

ロ、幼兒の方から見た擇び方、　之れは次の二ツになります。

（一）子供が再生し易い樣な再生要素の澤山ある話、同じ話をくりかへす事もよし、新らしくても子供に再生の樂くに出來る話がいゝのであります。

かねて子供の持てゐる處の、子供の觀念、子供の感情が其話に依て容易にくりかへさるるのが必要であります。

（二）子供の欲求を促すもの。自分の趣味に合するからとて全然子供と無關係なものではだめです。

お話は是非子供の情意生活にあてはまらなければなりません。

八、本質から見た擇び方、では、出來るだけ、お話の本質に合したものかいいと思ひます。

或時代に於て、お話は智的にどこまでも訓育的に有益に〳〵と偏する傾向がありました次には其反動として、有益といふよりも心のほどける爲といふことを主にしました。

近頃では後者の方が尊重せられて居ます。一體此頃の多く話される話に二種あります。それは、無意味話（イノセントストリー）及び理科物語であります。輕い、一寸した可笑しみといつた樣な生活に幼兒を入れるのも、科學々々で現實感に入れるのも大に結構な事ですが、かういふ事の外にお話の本質に屬して、お話でなければあたへられないのは、驚き、此世には驚くべきものがある、怖れ、この世には怖るべきものがある。憧憬、この世には憧憬すべきものがある、と云ふ感じであります。

精確と說明を主にする理科と、輕い長閑な息ひの生活の外に、其外に驚嘆、崇敬、嚴肅の生活も何となく養て置きたいものであります。

今の幼稚園ではこの深み奧行が最も缺けて居ります、お婆さんが語る鎭守の森の話は、お婆さん自らが其處に驚きと怖れ、憧憬を持て居りますから、それをきく子供には何となくそれが感じられるのですそういふ風のことが、今日の教育的お話には極く少い。

○お隣りの秀子ちやんは
お誕生を過ぎた許りの秀子ちやん
よち〳〵あるいてバタリとたほれ。
『居ない〳〵』『バーア』が大お好で
障子のうしろに廻つては『バーアー、』
お母さんの背にうづめた顏をあげては『バーアー、』
お店の用事奧の用事なか〳〵忙しい母さんは
『れんれんやう』を朝の中から寢かしつけても
れるのが嫌ひの秀子ちやんは
すぐ眼がさめて匍ひ出して立ち上る
『もう目がさめて、秀子ちやん、母ちやん御用が出來ません
好い兒だも少しれんれんやう』
云はれるそばから秀子ちやんは
母さんの背に乘つて『バーアー、』
お店に行けばよち〳〵と
帳場の臺に匍ひのぼり
足をなげ出し坐り込んで
父さんの顏のぞいて『バーアー、』